

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【国 語】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備考
2 東京書籍	(1) 単元の配列については、各領域をつなぐ教材として「学びを支える言葉の力」を設定し、各領域の学習に活用できる工夫が見られる。また、学年末教材に、1年間で身に付けた力を使って自分や社会の課題について考える総まとめの教材が設けられ、学習で身に付けた力の定着と活用を促す工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、全ての単元のはじめに学習のポイントとして示された「言葉の力」を基に、読み深めたり、グループで話し合ったりする学習活動を設けることで学びを深めながら学習を進められる工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、各教材に示した二次元コードにデジタルコンテンツの内容を分かりやすく示し、生徒が必要に応じてすぐに参照できる工夫が見られる。 (4) 生徒が自分の思いや考えをまとめ、伝え合おうとする態度を育むために、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の単元では、言語活動のポイントを「言葉の力」で細かく示しており、生徒が思考の整理をしやすくするなどの工夫が見られる。	1年 P128 1年 P220 1年 P126 1年 P126 1年 P51, 176 211
15 三省堂	(1) 単元の配列については、「読むこと」の領域の単元において「読み方を学ぼう」を設定することで、学びを広げたり、深めたりする工夫が見られる。また、「読むこと」の領域の学習と「書くこと」の領域の学習を関連付けた単元も設けられていて、領域の同士をつなげることで、学習内容の理解と定着を促す工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、巻頭に示された「思考の方法」で問いをもつことの大切さに触れ、思考を手助けするチャートの一覧を示すことで、生徒が問いをもちながら学習活動を進めることができる工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、巻末における「二次元コード参照先コンテンツ一覧」において、資料の種類を分かりやすく分類し、生徒が必要に応じて活用できる工夫が見られる。 (4) 生徒が自分の思いや考えをまとめ、伝え合おうとする態度を育むために、「話すこと・聞くこと」の領域の単元において、話し合いを効果的に行うための「話し合いのこつ」を系統的に示しており、生徒が基礎を理解した上で活動に取り組めるなどの工夫が見られる。	1年 P78 1年 P4 1年 P16～20 1年 P358 1年 P38, 224

17 教育出版	(1) 単元の配列については、応用的な問題として「学びのチャレンジ」が配置され、自分の学びを確認できる工夫がされている。また、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の単元では、教材末尾に学びを生活にどのように生かすことができるかを示すことで、学習内容の定着と活用を促す工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、教材の冒頭で「学びナビ」が設定され、何を学ぶかを明確にすることで、生徒の主体的な学びを引き出したり、読みを深めるための思考のヒントを具体的に示したりするなどの工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、二次元コードに示してある「まなびリンク」において、学習に役立つ情報をウェブサイトから参照し、活用できるようにする工夫が見られる。 (4) 生徒が自分の思いや考えをまとめ、伝え合おうとする態度を育むために、「話すこと・聞くこと」の領域の単元「書くこと」の領域の単元の前に設定された「学びナビ」の中で、取り組みやすくするためのヒントが示されているなどの工夫が見られる。	1 年 P192 P53、77 1 年 P90 1 年 P14 P106 1 年 P45、51、 75、103 185、225 229
38 光村図書出版	(1) 単元の配列については、教材につながりをもたせ、資質・能力を活用して学びを深めたり、異なる領域で同じ話題を扱い、考えを深めたりする工夫がみられる。また、教材の後に設定した「学びのカギ」を手掛かりに、「学びへの扉」に沿って学習することで、学習内容の理解と定着を促す工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、教材の学習の流れが段階的に示された「学びへの扉」や学習のポイントがまとめられた「学びのカギ」が設けられ、生徒が見通しをもち、自らの学びを確認しながら学習に臨める工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、「ICT活用のヒント」において、各領域でのICTの活用場面や参考となる資料を示し、効果的にICTを活用することができる工夫が見られる。 (4) 生徒が自分の思いや考えをまとめ、伝え合おうとする態度を育むために、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の領域の単元では、学習の流れを単元のはじめに示し、到達目標を明確にすることで生徒が思考の整理をしやすくするなどの工夫が見られる。	1 年 P137、138 1 年 P114、115 1 年 巻末 1 年 P34、54 116、140 192、228 234

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【書 写】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備 考
2 東京書籍	(1) 単元の構成に関しては、「書写のかぎ」で示された学習のポイントをもとに「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」の3段階で学習し、「振り返ろう」で説明させることで、学習内容を焦点化して学びを進められる工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「生活に広げよう」では、日常生活の文字を手書きする具体的な場面を通して、書写学習で身に付けた力の生かし方を話し合う活動を設定する工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、説明の文言を文節で改行したり、小学校で学習していない漢字には初出箇所にルビを付けたりすることで、全ての生徒への支援となる工夫が見られる。 (4) 実生活において手書き文字のよさを効果的に生かす力を養うために、計6単元設けられた「生活に広げよう」では、国語や他教科で扱う言語活動や題材を教材化したり、その内容と連動するように巻末の「書写活用ブック」を構成したりすることで、手書き文字について学んだことを他の学習と関連付けて合科的に学習しながら実生活に生かしやすくするなどの工夫が見られる。	1年 P20 1年 P22 1年 P26 1年 P36, 37
15 三省堂	(1) 単元の構成に関しては、各教材に「書き方を学ぼう」を設けて具体的な字形例とともに示されたポイントを学習し、単元末の「書いて身につけよう」において、学習内容を硬筆や日常生活に生かすことができる工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、学年末教材の「やってみよう」での新聞や情報誌の制作において、これまでの学習を生かした作品を作り上げるためのグループ活動を設定する工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、学年や学習内容ごとにアイコンや色を変えたり、区切り線や囲い線をつけたりするなど、全ての生徒が見やすく学びやすいレイアウトとなるよう工夫が見られる。 (4) 実生活において手書き文字のよさを効果的に生かす力を養うために、各学年の学習のまとめにおいて「やってみよう」と題して1年間の学びを学校生活に生かせる具体的な課題を設定したり、巻末の「資料編」に「日常の書式」と題して社会生活に役立つ知識の要点をまとめたりして手書き文字について学んだことを実生活に生かしやすくするなどの工夫が見られる。	1年 P26, P28 1年 P44 1年 P42～P47 1年 P44, 45

17 教育出版	(1) 単元の構成に関しては、「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」の4段階での学習手順となっており、各毛筆教材の導入「試し書き」において、硬筆で書かせることで毛筆と硬筆の学びをつなぐ工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「学習の進め方」の「考えよう」において、課題解決的な学習や話し合い活動を通した学び方を示し、自らの課題意識や話し合いの活性化を促す工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、淡い色使いをベースにAB判で作られており、大きな紙面で作品等を見ることができ、文字や作品により注目して学習することができるという工夫が見られる。 (4) 実生活において手書き文字のよさを効果的に生かす力を養うために、巻頭の「目的に合わせて書こう」で書写学習と実生活との関連が一目で分かるように示したり、単元構成を「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」で学んだ後に学習や日常生活に生かすという流れに統一したりして、学習に見通しをもち、手書き文字について学んだことを実生活に生かしやすくするなどの工夫が見られる。	1年 P20 1年 P10 1年 P18～20 1年 P30, 31 P32～35
38 光村図書出版	(1) 単元の構成に関しては、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の3段階の学習過程となっており、「学びのカギ」において、学習のポイントを説明やイラスト等で視覚的に示し、学習内容を確認しながら学習できる工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各毛筆教材の「考えよう」において自ら課題を発見させたり、「コラム」において文字に関する様々な問いについて話し合う活動を設定したりする工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、行書の特徴をアイコンで示したり、毛筆手本の半紙の右端に朱墨・薄墨で点画を示したりして、筆使いのポイントを理解しやすくする工夫が見られる。 (4) 実生活において手書き文字のよさを効果的に生かす力を養うために、各学年に国語の学習内容と関連した教材を設定した上で、第3学年の初めに「手書きのよさって、何だろう」と題して手書きの価値を改めて考える教材を設定したり、別冊「書写ブック」で知識・技能の要点を復習できるようにしたりして、手書き文字について学んだことを定着させながら実生活に生かしやすくするなどの工夫が見られる。	1年 P40 1年 P58 P48 1年 P52 P56, 57 別冊 P12～13 3年 P88, 89 別冊

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【社会（地理的分野）】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備考
2 東京書籍	(1) 社会科地理的分野の目標を達成するために、章の構成は、課題をつかむ、課題を追究する、課題を解決するという流れで構造化され、単元を貫く探究課題を解決していく学習活動ができるような工夫が見られる。 (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、単元の終わりに「探究課題を解決しよう」が設定しており、地域のこれからを思考・判断・表現し課題を解決する力を高めるような工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、導入で印象的な写真を掲載し、興味・関心を高めさせたり、章や節ごとに単元を貫く問いについて独立したページを設けて、学習内容の見通しをもたせたりする工夫が見られる。 (4) 社会的事象や社会問題を自分事としてとらえ、主体的に学ぶ態度を育成するために、持続可能な社会の実現に向けた「未来にアクセス」を設けたり、世界や日本の中学生が自分の地域を語る「聞かせて！中学生」を設けたりする工夫が見られる。	P 4 P127 P60 P187 P85 P118
17 教育出版	(1) 社会科地理的分野の目標を達成するために、章・節の構成は、とびら・導入ページ、本時ページ、学習のまとめと表現ページになっており、見通しや振り返りの学習活動に取り組みやすくなるような工夫が見られる。 (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、「クロスロード」が設定され、学習内容を活かして、生徒が地域の課題解決に向けて思考・判断・表現できるような工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、「LOOK!」「THINK!」等の見出しを設け、学習の視点を提示したり、章や節のまとめにおいて様々な種類の思考ツールを多用することで学習内容の可視化を図ったりする工夫が見られる。 (4) 社会的事象や社会問題を自分事としてとらえ、主体的に学ぶ態度を育成するために、主権者としての社会参画の意識を高める「クロスロード」を設けたり、学びを掘り下げ、視点を広げる「地理の窓」を設けたりする工夫が見られる。	P25,27,42 P230 P58～59 P199 P200～201 P85

46 帝国書院	(1) 社会科地理的分野の目標を達成するために、章・節の構成は、単元の見通しのページ、毎時の学びのページ、単元の振り返りのページとなっており、単元を通した学習活動に取り組みやすくなるような工夫が見られる。 (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、「アクティブ地理」が設定され、地域の課題について習得した知識や技能を使って実践的に考えていく学習を通して、思考力を高めるような工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、大きく鮮やかな写真やイラストを多用し、興味・関心を高めさせたり、章や節のまとめにおいて思考ツールを活用することで学習内容の可視化を図ったりする工夫が見られる。 (4) 社会的事象や社会問題を自分事としてとらえ、主体的に学ぶ態度を育成するために、地域に見られる課題について考察する「アクティブ地理」を設けたり、課題の解決に取り組む視点を養う「未来に向けて」を設けたりする工夫が見られる。	巻頭 5 P150 P64 巻頭 9 P214～215 P156～157
116 日本文教出版	(1) 社会科地理的分野の目標を達成するために、章・節の構成は、学習のはじめに、問いの設定、本文、まとめとふり返りのページとなっており、学習の見通しと振り返りができるような工夫が見られる。 (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、単元ごとに「自分の考えをまとめよう」が設定してあり、既習事項を整理し、地域の課題を思考・判断・表現することができるよう工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、章や節ごとに単元を貫く問いについて独立したページを設けて、学習の見通しをもたせたり、ポートフォリオを活用することで思考の整理をさせやすくしたりする工夫が見られる。 (4) 社会的事象や社会問題を自分事としてとらえ、主体的に学ぶ態度を育成するために、現代的な課題について、様々な視点から考察する「持続可能な地域をめざして」を設けたり、学びの理解を深める「地理＋α」を設けたりする工夫が見られる。	巻頭 7 P51 P233 P175 P174 P75

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【社会（歴史的分野）】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備 考
2 東京書籍	(1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章・節の構成は、課題をつかむ、課題を追究する、課題を解決するという流れで構成されており、学習の流れを可視化し、課題を解決する力を育てることができるような工夫が見られる。 (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、学習内容を「ウェビング」などの思考ツールを活用して整理したり、グループ学習「みんなでチャレンジ」コーナーを設けたりするなどの工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、各ページ下「チェック＆トライ」で1時間の学習をふり返った後、数ページ先の「探究のステップ」のページを示すなどして、各章や節のまとめと、そのまとめを基にした探究課題の解決が効率的に行える工夫が見られる。 (4) 様々な歴史的事象を通じて、主体的に学ぶ意欲を育成するために、これまでに身に付けた技能を活用して活動するコーナーや「もっと知りたい！」などを通して、歴史的事象を多面的・多角的にとらえられるような工夫が見られる。	P6 P60 P26 P111 P140 P58 P197 P231
17 教育出版	(1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章・節の構成は、とびら・導入ページ、本文・特設ページ、学習のまとめと表現ページとなっており、「問い」を軸にして課題解決的に追究していくような工夫が見られる。 (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、学習したことを活用して表現する「表現！」や各章の最後に学習を振り返る「学習のまとめと表現」ページを設定するなどの工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、見開き最後の「確認！表現！」で1時間の学びを振り返り、さらに、各章の学習を振り返る「学習のまとめと表現」では、3段階の構成で、基礎・基本の定着とともに、次の章への準備を効率的に行える工夫が見られる。 (4) 様々な歴史的事象を通じて、主体的に学ぶ意欲を育成するために「歴史の窓」や「歴史を探ろう」では、本文内容からさらに一歩進んで学びを掘り下げ、視点を変えたり広げたりできる工夫が見られる。	P2 P23 P56 P149 P202～203 P211 P223 P236 P246

46 帝国書院	(1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章・節の構成は、単元の見通しページ、毎時の学びページ、単元（章）の振り返りページとなっており、学習の見通しと振り返りがしやすいような工夫が見られる。 (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、巻頭「考えを整理する方法～思考ツールを活用しよう～」で、学習で有用な思考ツールを紹介したり、それを用いる場面を多く設定したりするなどの工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、見開き最後の「確認しよう・説明しよう」で1時間の学びのふり返りができる。さらに、各章末尾の「学習を振り返ろう」で各章・節の問いについて考えさせ、各時代の特色の考察が効率的に行える工夫が見られる。 (4) 様々な歴史的事象を通じて、主体的に学ぶ意欲を育成するために、各時代のはじめに置かれた「タイムトラベル」では、イラストを通じて、当時の社会に対する興味・関心を高める工夫が見られる。	P 巻頭 5 P 巻頭 9 P225 P229 P272 P26 P184 P250
81 山川出版社	(1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章の構成は、扉「日本史と世界史の帯年表」のページ、本文ページ、まとめのページとなっており、世界史を含めた歴史全体の流れをつかむことができるような工夫が見られる。 (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、各単元の学習課題、ステップアップの課題、図版に付した発問など、各所に設けた発問を自ら考え、判断する力を身につけられるような工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、見開き最後の「ステップアップ」で、1時間の学習内容を踏まえた発展的な学びにつなげている。さらに、章末の「まとめ」では、様々なパターンの発問を通して、生徒の主体的・対話的な活動を促す工夫が見られる。 (4) 様々な歴史的事象を通じて、主体的に学ぶ意欲を育成するために、全7か所に「地域からのアプローチ」を設置し、各地域の歴史や伝統文化などについて深く掘り下げて学ぶことができる工夫が見られる。	P14～15 P60～61 P16 P17 P60 P58～59

116 日本文教出版	(1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章・節の構成は、学習のはじめにページ、本文ページ、まとめとふり返りのページとなっており、生徒が問いを立て、学習の見通しと振り返りができるような工夫が見られる。 (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、各章末に「まとめとふり返し」を設け、時代の特徴をまとめさせたり、考察する際に活用できる思考ツールを随所に設けたりするなど工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、見開き最後の「確認・表現」で、1時間の学習を振り返ることができる。さらに、編末の「まとめとふり返し」では、習得した知識の確認のあと、各編・節の問いに答えることで、時代の特徴を考えさせる工夫が見られる。 (4) 様々な歴史的事象を通じて、主体的に学ぶ意欲を育成するために、節のはじめに問いの解決に向けたイントロダクションムービーが配置されており、単元の学習を見通すことができる工夫が見られる。	P2 P62 P257 P23 P62～63 P176
225 自由社	(1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章の構成は、導入ページ、本文ページ、章末に調べ学習、復習問題、時代の特徴を考える、対話とまとめの図のページとなっており、章全体を構造的に関連付けて構成するような工夫が見られる。 (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、各章の章末において、生徒の探究をうながす課題学習のページや時代の特徴を考えさせるページを設定するなどの工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、見開き最後の「チャレンジ」で、1時間の知識の整理ができる。さらに、章末に「調べ学習⇒復習問題⇒時代の特徴を考える⇒対話とまとめ図」のページを設け、段階を追って時代を大観させる工夫が見られる。 (4) 様々な歴史的事象を通じて、主体的に学ぶ意欲を育成するために、「もっと知りたいコラム」では、歴史に厚みと奥行きを与えることで視点を変えたり広げたりする工夫が見られる。	P19 P64～68 P64 P67 P21 P64～ P170～171

236 令和書籍	(1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章の構成は、本文ページ・特設ページ（コラム）、章のまとめページとなっており、我が国の歴史の特色や歴史の連続性をより実感できるような工夫が見られる。 (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成できるよう、各時代の章末において、まとめを行うコーナーを設け、その中で政治・文化・外交・産業の4つの観点でまとめさせるなどの工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、本文の時代の転換時には「先土器時代以前」や「平成時代」という見出しを設けている。さらに、各章末に「まとめ学習」を配置し、政治・文化・外交・産業別に時代の特色をまとめ、全体像を掴ませる工夫が見られる。 (4) 様々な歴史的事象を通じて、主体的に学ぶ意欲を育成するために、多角的視点から歴史を俯瞰できるよう、コラムやページ上下に注釈を設定するなど、興味を高められるような工夫が見られる。	P77 P118 P118 P19 P319 P288
----------	--	--

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【社会（公民的分野）】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備考
2 東京書籍	(1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、課題をつかむ、課題を追究する、課題を解決するという流れで構成されており、単元を貫く探究課題を解決していく学習活動ができる工夫が見られる。 (2) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、持続可能な社会の実現に向けた課題を意識する巻頭ページや社会に参画する態度を養う「18歳へのステップ」を設ける工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、導入からまとめまでの学習の流れが分かりやすくデザインされており、学習のまとめでは、思考ツールを使って自分の思考を整理し、課題解決につなげる工夫が見られる。 (4) 現代社会の課題について多面的・多角的に考え、自らの意見を基に議論する力を育むために、これまで身に付けた技能を活用する活動コーナーを設けるとともに、対話から他者の意見を取り入れ、自分の意見を調整する「みんなでチャレンジ」を設けるなど、対話的な活動につなげる工夫が見られる。	P 4 巻頭 1 ～ 2 P138～139 P 8 ～ 9 P32～35 P29 P30～31
17 教育出版	(1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、課題を捉え見通す導入ページ、追究する本時ページ、捉えなおし深める特設ページ、学習のまとめと表現ページになっており、見通し・振り返ることができる工夫が見られる。 (2) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、「持続可能な社会に向けて」で持続可能な未来を意識させたり、巻末の「私の提案」で実社会の課題と向き合い探究させたりする工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、各章を見通す導入ページや学習を振り返るページを設けて、課題を捉え、見通しを立てやすくすることで、学習内容の理解につなげる工夫が見られる。 (4) 現代社会の課題について多面的・多角的に考え、自らの意見を基に議論する力を育むために、学習で身に付けさせたい技能や表現力を養う「公民の技！」を設けたり、ディベートやロールプレイ等、多様な表現活動に取り組ませる「TRY！」を設けたりするなど、対話的な活動につなげる工夫が見られる。	P 4 ～ 5 P96～97 P232 P13 P37 P59 P112～113

46 帝国書院	(1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、章・節・見開きごとに問いと振り返りを設け、学習した内容を積み重ねながら、章の問いを追究していくことができるような工夫が見られる。 (2) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、巻頭で持続可能な社会の実現に向けた意識を高めたり、「未来に向けて」で未来の社会をつくる取組を確認できたりする工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、章や単元に鮮明で読み取りやすい大判イラストや学習と直結する躍動感のある導入資料を多用し、学習内容の理解につなげる工夫が見られる。 (4) 現代社会の課題について多面的・多角的に考え、自らの意見を基に議論する力を育むために、毎時間、対話から学習課題につなげる「対話アイコン」を設けたり、身近な課題を、多様な視点から合意形成に向けて議論する「アクティブ公民」を設けたりするなど、対話的な活動につなげる工夫が見られる。	巻頭 5 ～ 6 巻頭 1 ～ 2 P214 P 2 ～ 3 P 6 P48 P166～167
116 日本文教出版	(1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、導入ページ、本文ページ、問いを解決し学びをまとめ・ふり返るページとなっており、「見方・考え方」を働かせて課題を追究する学習活動ができるような工夫が見られる。 (2) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、「SDGsマーク」を用いて持続可能な開発目標との関連を図ったり、「明日に向かって」でより良い社会参画を促したりする工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、イラストなどを活用し、見通しをもって学習に取り組める単元構成になっており、新しい事例や生徒が身近に考えられる事例を取り上げる工夫が見られる。 (4) 現代社会の課題について多面的・多角的に考え、自らの意見を基に議論する力を育むために、身近なテーマから具体的な問いや事例を提示し、協働的な学びを促す「アクティビティ」を設けたり、社会の課題を考察・構想する「チャレンジ公民」を設けたりするなど、対話的な活動につなげる工夫が見られる。	P 4 ～ 5 P59 P138～139 P38～81 P158 P71 P63 P218～219

225 自由社	(1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、導入ページ、本文ページ、学習のまとめと発展のページとなっており、毎時間の学習内容について章末で重要語句を確認し、定着させる学習活動ができる工夫が見られる。 (2) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、「日本人の価値観・感性」からSDGsについて考えたり、「やってみよう」で身近な事象と学習内容との関連を図ったりする工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、イラストとともに章のタイトルや導入となるコメントを掲載したり、単元の最後に授業で押さえるべき重要な確認事項をまとめたりする工夫が見られる。 (4) 現代社会の課題について多面的・多角的に考え、自らの意見を基に議論する力を育むために、対話を通して意見をまとめる「アクティブに深めよう」を設けたり、学びをもとに、課題解決の方法を自分なりに考察する「やってみよう」を設けたりするなど、対話的な活動につなげる工夫が見られる。	巻頭 viii～ix P213 P137 P43 P22 P118～119 P153
---------	---	--

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【地 図】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備 考
2 東京書籍	(1) 社会科の目標を達成するために、巻頭では地図記号、巻末では地形図の読み取り方、方位などの活用方法が解説されており、地図帳の基本的な見方や使い方が示されている。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、世界の各州と日本の各地方のページに自然・人口・産業などの主題図を共通して掲載したり、世界と日本を比較するページを配置したりするなどの工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、前回より大判化したことで、1ページ当たりの情報量が充実した。また、過去と現在の地形を同じページに掲載することで、比較しながら変化を読み取れるなどの工夫が見られる。 (4) 様々な地理的事象を通じて、地域的特色に興味・関心をもたせ、主体的に学ぶ意欲を育成するために、一般図だけでなく、拡大地図、鳥瞰図、写真、主題図等、多種多様な資料が随所に掲載されているなどの工夫が見られる。	P4～8 P155 P50 P137～138 P111～112 P93～94 P111～112 P15～16 P27～28
46 帝国書院	(1) 社会科の目標を達成するために、巻頭では凡例、地図記号や方位、巻末では地形図について解説されており、地図帳の基本的な見方や使い方が示されている。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、世界の各州・日本の各地方の主題図をほぼ同縮尺で提示したり、日本の各地方のページに産業の特徴を捉える統計資料を配置したりするなどの工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、世界の各州に、自然環境や生活・文化・産業などをイラストで表記した鳥瞰図を掲載することで、関心を高めながら特色がより視覚的に読み取れるなどの工夫が見られる。 (4) 様々な地理的事象を通じて、地域的特色に興味・関心をもたせ、主体的に学ぶ意欲を育成するために、随所に「地図で発見！」が配置されており、地図上から必要な情報を読み取る力を身に付けることができる工夫が見られる。	P4～14 P195 P65～66 P92 P53～54 P41 P88

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【数 学】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備 考
2 東京書籍	(1) 数学科の目標を達成するために、ヒントと解答のある「クイックチェック」を通して、より短いスパンで学んだことを確認することで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、算数と数学の学びをつないだり、日常生活や社会の事象に関わる問題を発見・解決したりすることで、主体的な学びを促すような構成・配列の工夫が見られる。 (2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「深い学びのページ」では課題解決の流れをページ枠に示し、個人で思考した後、次ページで話し合い活動などを行い、学習内容を深めることができる構成にすることで、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、キャラクターの吹き出しに「同じように考えると」や「それなら」という文言をつけ、学びのつながりを自覚できるようにするとともに、より細かな単位で理解を確認する「クイックチェック」を設けることで、生徒自身がつまづきを早期に発見できるような工夫が見られる。 (4) 生徒が日常生活との関連に気づき、自ら粘り強く学習しようとする態度を育むために、章の始まりや節の導入、「数学のまど」で日常との関連を図ったり、章末の「深い学び」では、解決したくなる問題場面を用意し、側注に問題解決の過程を示したりすることで、興味・関心をもって学習に取り組めるような工夫が見られる。	P70 P12 P103 P104 P39 P32 P19, 20 P39 P57, 58
4 大日本図書	(1) 数学科の目標を達成するために、練習問題を補充する「プラス・ワン」等で、練習だけでなく、確かめや振り返りも行うことで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、話し合い活動を通して見出した事柄を、その後の例題や練習問題の解決につなげていく学習過程が、各節ごとに丁寧に示されるなどの構成・配列の工夫が見られる。 (2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、各章の「利用」の課題では思考の段階に対応させて、問題発見・問題解決の流れをページの端に示し、仲間と協力して問題解決に取り組んだり、解決の過程を振り返ったりするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、ウェブコンテンツを使って学習を深めることができる場面にマークをつけて、シミュレーションや動画、資料などのコンテンツを用意するとともに、付録に各学年のまとめを掲載し、使用時に教科書から切り取って冊子として持ち運ぶことができるような工夫が見られる。 (4) 生徒が日常生活との関連に気づき、自ら粘り強く学習しようとする態度を育むために、各章に「活用・探究」を設け、数学を学ぶことの面白さや考えることの楽しさを味わえるようにしたり、項の導入には「考えよう」を設置して、問題や疑問を見出したりすることができるような工夫が見られる。	P142 P120 P64 巻末付録 P64 P68

11 学校図書	(1) 数学科の目標を達成するために、授業や家庭学習で活用できる「計算力を高めよう」を通して、多くの問題にチャレンジすることで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、「章・節のとびら」を設定して身の回りの生活や数学の学習の中から、生徒が自ら問題を発見し、考えることができるようにするなどの構成・配列の工夫が見られる。 (2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、節の導入で身近な題材から疑問を見つけ、「Q」では話し合い活動から目標を立てたり、「数学的活動のページ」では、問題を発見し答えに至るまでの過程を丁寧に示したりするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、領域ごとに「ふりかえり」のページを挿入し、単元導入時にスムーズにその学年の学習に入っていけるようにするとともに、「さらなる数学へ」では、1年間の学びを生かして、日常生活や社会の様々な課題を考察したり解決したりできるような工夫が見られる。 (4) 生徒が日常生活との関連に気付き、自ら粘り強く学習しようとする態度を育むために、節の導入では身のまわりから問題を発見したり、発見した疑問を数理化・焦点化した問題「Q」について、側注の「見方・考え方」や生徒の吹き出しから見通しを立てて解決しようとしたりするため工夫が見られる。	P34 P19 P20 P188 P128 P275 P10 P12 P50
17 教育出版	(1) 数学科の目標を達成するために、基礎・基本を確認できる「学習のまとめ」から活用問題の「章の問題」へと段階的に取り組むことで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、小中や各学年の滑らかな接続に配慮し、章を学習する前に既習事項を振り返ったり、学び直しをしたりする問題を設定するなどの構成・配列の工夫が見られる。 (2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「? (疑問)」から、「! (わかったこと)」を見出し、「! ? (新たな疑問)」へつなげる数学的活動のサイクルを位置付け、一人一人の生徒が問いをもって学び合えるなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、各章の終わりに設定した「章の問題」を「たしかめよう」→「力をのばそう」→「学んだことを活用しよう」という構成にするとともに、デジタルコンテンツ「まなびリンク」で解決の手立てを示すなど、生徒の理解度に応じて学習を進めることができるような工夫が見られる。 (4) 生徒が日常生活との関連に気付き、自ら粘り強く学習しようとする態度を育むために、「Let's Try」で実社会や日常生活等の話題を示したり、「? (はてな)」から、「! (なるほど)」を見出し、さらに「! ? (だったら)」へつながる構成にしたりして、問いをもって取り組めるような工夫が見られる。	P63 P64 P72 P32 P33 P207～ P209 P14 P32

61 新興出版社啓林館	(1) 数学科の目標を達成するために、基本・応用問題に加えて、学習したことを自分の言葉でまとめる振り返りの場面を設定することで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、節の始めの「学習のとびら」では、数学を学ぶ意義と有用性を実感し、話し合い活動を通して解決の見通しをもつことができるようにするなどの構成・配列の工夫が見られる。 (2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、2つの標識「学びをひろげるときに役立つ考え方」「解決するときの考え方」を示すことで、大切な考え方を自然に体得させ、単元末では、分かったことなどをまとめる場面を設定するなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、単元内にある節の学習を進めれば解決できる身の回りの問題を、すべての節の先頭に「学習のとびら」として設定するとともに、場面理解や話し合い活動、試行錯誤する活動をサポートするコンテンツなどを用意し、学習内容の理解を促すような工夫が見られる。 (4) 生徒が日常生活との関連に気付き、自ら粘り強く学習しようとする態度を育むために、章の導入や「数学ライブラリー」では数学が関係している身の回りの題材を挿入したり、側注に「同じように考える」や「範囲を広げる」などの標識を示すことで、問題を見出し、解決しようとしていたりすることができるような工夫が見られる。	P55下 P148 P30 P31 P179 P69 P213 P50 P28, 29
104 数研出版	(1) 数学科の目標を達成するために、練習問題や「学んだことを活用しよう」等のデジタルコンテンツを各単元で豊富に活用することによって学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、各章に「ふりかえり」を設定し学び直しを行うとともに、既習事項をまとめた巻末ページで前学年とのつながりを確認できるようにするなどの構成・配列の工夫が見られる。 (2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「Q」や「TRY」の場面を中心に、生徒と先生のキャラクターの発言から課題を別の角度で捉え、新たな疑問をもたせ、学習の内容の理解を深めようとするなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、本文や例を丁寧に記述し、要所で図解を用いることで、生徒自身で理解を深められるようにするとともに、教科書の内容を補充する動画や資料などの、5種類のコンテンツを用意し、多様な生徒に合った学びができるような工夫が見られる。 (4) 生徒が日常生活との関連に気付き、自ら粘り強く学習しようとする態度を育むために、「TRY」や「Q」の活動場面を中心に生徒キャラクターの吹き出しから新たな学習内容の必要性を考えたり、身の回りにある事から数学的事象を見出し、様々な場面で活用しようとしていたりする態度を身に付けられるような工夫が見られる。	P60 P61 P50 P63 P188 P144 P145

116 日本文教出版	(1) 数学科の目標を達成するために、各自で取り組める多様な問題が章末に用意され、基本から発展まで習熟度に応じて取り組めるなどの学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。また、既習事項である基礎的・基本的な内容を必要な場面で確かめることができる「確かめ」で生徒のつまづきを未然に防ぐようにするなどの構成・配列の工夫が見られる。 (2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、問題解決型の「学び合おう」では、自分で考え、対話を通じて学び合う問題解決の過程を示し、また巻末には「ふり返りシート」「対話シート」を用意し、考える力や説明する力を高めるなど、主体的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、デジタルコンテンツを使うと有効な場所に二次元コードを配置して、その上に分類を付記するとともに、生徒が苦手を克服できるように、まちがえやすい箇所に「誤答に注意！」を表示したり、「表現の例」として分かりやすい説明を具体的に示したりするような工夫が見られる。 (4) 生徒が日常生活との関連に気づき、自ら粘り強く学習しようとする態度を育むために、「身近なことから」の問題を挿入し、数学を日常生活に生かそうとしたり、章の導入や「数学のたんけん」では、興味を引く身近な事柄を数学の問題として捉え、知的好奇心を高めたりするような工夫が見られる。	P87 P68 P297 P299 P142 P52 P56
------------	--	---

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【理 科】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備 考
2 東京書籍	(1) 理科の目標を達成するために、学習の流れやポイントを「見える化」とするとともに、単元内に「じっくり探究」を設け、より深く探究することができるようにしている。また、章ごとに「Before&After」があり、生徒が見通しをもって学習に取り組み、学習前後の自分の考えの変容を実感できるような構成・配列等の工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各節の導入の「レッツ スタート！」において生徒が自ら気づきを得られるように問題を示している。また、「理科の見方・考え方」を設定し、生徒に具体的に示すなど、対話を促したり、学びを深めたりするような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、1 見開き 1 時間構成となっており、授業の見通しを立てやすくなっている。また、複雑な思考をシンプルなイラスト等にして掲載することで、生徒の学習意欲を喚起できる工夫が見られる。 (4) 理科の見方・考え方を働かせ、科学的に探究する力を育成するために、生徒が主体的に学べるよう、各学年の巻頭に「探究の流れを確認しよう」というページを設け、身の回りの疑問をもとに課題を設定し、その課題を解決していく過程を示している。また、各単元に「じっくり探究」を設けることで、科学的な資質・能力を育成するような工夫が見られる。	2 年 P 2 ～ P 3 2 年 P 50 ～ P 55 2 年 P 49 2 年 P 52 2 年 P 50 2 年 P 55 2 年 P 16 ～ P 17 2 年 P 14 2 年 巻頭 P ③ 2 年 P 1 2 年 P 50 ～ P 55
4 大日本図書	(1) 理科の目標を達成するために、単元の導入において「これまでに学習したこと」「これから学習すること」を設け、既習事項を振り返り、見通しをもった学習を行うことができるようにしている。また、単元末では「探究活動」に取り組み、既習事項を使い新たな課題を解決することにより、さらに学びが深くなるような構成・配列等の工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各学年で重視する探究の過程を示し、探究の場面を明確にすることで、主体的な学習を促している。また、「話し合おう」などの対話的活動を設定することで、深い学びが実現できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、多様なキャラクターを用いて、多面的に考えるためのヒントを提示している。また、実験のページに着目点が設定されており、生徒が見通しをもって学習に取り組める工夫が見られる。 (4) 理科の見方・考え方を働かせ、科学的に探究する力を育成するために、生徒が探究の過程に沿った学習を意識的に進められるよう、マークを設け学習過程を明確にするなど、見通しをもって問題解決に取り組み、探究する力が身に付く工夫がある。また、単元の最後に「探究活動」を設定しており、単元で学習したことを活用する工夫が見られる。	2 年 P 8 ～ P 9 2 年 P 72 ～ P 73 2 年 P 62 2 年 P 65 2 年 P 14 ～ P 15 2 年 P 61 ～ P 63 2 年 P 72 ～ P 73

11 学校図書	(1) 理科の目標を達成するために、「探究」のページにおいて探究の手法を段階的に理解しやすい構成にしている。また、「学びのあしあと」「Can-Do List」等を設け、生徒が単元全体や学習内容の見通しをもって学習に取り組み、学習後にどのような力が身に付き、考えがどう深まったかを生徒自身が実感できるような構成・配列等の工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、導入場面や仮説の設定、計画立案の場面等で、生徒の話合いのイラストを提示し、多様な考え方に触れるようにしている。また、探究の手法を段階的に示すことで、生徒が問題を発見し、話し合いながら探究を進められる工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページに二次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、章ごとに大きな写真やSDGsのアイコンを掲載し、生徒が学習内容と日常生活との関連を意識できる工夫が見られる。 (4) 理科の見方・考え方を働かせ、科学的に探究する力を育成するために、各学年巻頭の「理路整然」で探究の考え方や深め方を詳細に説明し、1時間の授業ごとで働かせたい「この時間の見方」「考え方」が例示されている。また、各単元の観察・実験を「探究」として科学的探究の過程を分解して示し、探究の進め方を理解しやすくする工夫が見られる。	2年P11 ～P15 2年P7 2年P39 ～P42 2年P10 2年P8 ～P9 2年P4 ～P6 2年P11 ～P14
17 教育出版	(1) 理科の目標を達成するために、巻頭に「探究の進め方」の折り込みを設け、本文ページを開いた状態でも探究の過程を確認しながら学習できるようにしている。また、章の導入と章末において、「学習前の私」「学習後の私」をそれぞれ設け、学びの深まりを生徒自身が認識できるような構成・配列等の工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「疑問から探究してみよう」を提示し、生徒キャラクターの吹き出しをもとに課題を自分事してとらえられるようにしている。また、課題の解決に向けて、生徒が対話的に学習を進め、深い学びを実現できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、教科書のサイズや文字を大きくし、視覚的にゆったりとした紙面になっている。また、課題と結論を赤囲みで強調することで、生徒が課題と結論の整合性を意識できるような工夫が見られる。 (4) 理科の見方・考え方を働かせ、科学的に探究する力を育成するために、各学年の巻頭の「探究の進め方」を折り込みにし、本文ページを開いた状態で、探究の流れを見ることができるよう工夫が見られる。また、「疑問から探究してみよう」として重点化し、限られた授業時数の中で、探究型の授業に無理なく取り組める工夫が見られる。	2年 巻頭折込 2年P8 2年P29 2年P65 2年P10 2年P12 2年P16 2年 巻頭折込 2年P161 ～P164

61 新興出版社啓林館	(1) 理科の目標を達成するために、単元の導入段階において、「学びの見通し」「学ぶ前にトライ！」を設け、様々な知識を活用して解決することのできる問いを設定し、課題意識をもって学習に取り組むことができるようにしている。また、同じ問いを、単元末に「学んだ後にリトライ！」として設け、科学的に探究できる構成・配列等の工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各単元に1つ「探Q実験」を設定し、「探Qシート」により生徒の主体的な学習を支援している。また、「Action活用してみよう」など、発表や活動の場面を設定することで学びを深めるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、二次元コードを設けたりICTをどの場面でどのように使うのかを明記したりしている。また、章ごとの「Review」「学習のまとめ」の中で、学びの過程の振り返りを意識できるような工夫が見られる。 (4) 理科の見方・考え方を働かせ、科学的に探究する力を育成するために、「探Qシート」に「探究の過程」を書き込むことで、探究の流れをつかめるような工夫が見られる。また仮説や計画などを生徒自身が考える実験では、吹き出しで探究の手がかりとなるヒントを示すことで、主体的な思考を補助するような工夫が見られる。	2年P138 ～P139 2年 P201 2年P35 2年P41 2年P7 ～P8 2年巻頭 2年P17 2年P296 巻末折込 2年P143
-------------	---	---

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【音楽（一般）】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備 考
17 教育出版	(1) 単元の構成については、表現及び鑑賞の幅広い活動を実現させるために、教材と選択可能なオプション教材・資料を組み合わせるような工夫がされている。歌唱、鑑賞、創作の分野が関連付けて構成されており、学習内容や教材が一目で分かるように「学習MAP」として示す工夫が見られる。 (2) 音楽的な「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、吹き出しによって、「思考力・判断力・表現力等」を促すための学習活動のポイントや学習内容に関連した項目を示す工夫が見られる。また、生徒が二次元コードで読み取った創作のワークシートに直接書き込み、学習状況を確認したり、保存したりできるような工夫が見られる。 (3) 資料について、歌唱では、「sing! sing!」のページで歌うための姿勢や発音などをチェックしながら確認できるように分かりやすいイラストで示す工夫がされている。鑑賞では、「Let's Try!」のページで楽曲に関する体験活動を通して、日本音楽の特徴や曲の仕組みについて理解を深めることができるよう工夫されている。 (4) 生徒が主体的に学び、他者と協働しながら楽曲の良さに気づき、音楽を表現する態度を育むために、「Active!」のコーナーでは、生徒が主体的・協働的に学習を進め、学びあうための活動例が示されている。また、「話し合おう」のコーナーでは、自分の考えをまとめ、意見が交流できるようになっており、対話を通して学びが深められるように工夫されている。	P8, 9 P12, 13, 53 P39 P12, 24, 30 P25, 42, 57 P16, 26, 47 P55, 60, 63
27 教育芸術社	(1) 単元の構成については、表現及び鑑賞の幅広い活動を実現させるために、ねらいに応じて教材や学習活動を選択することができるような工夫がされている。育成を目指す力の「思考力・判断力・表現力」「知識」「技能」と対応する題材が構成され、一目で分かるように見開きのページで示す工夫が見られる。 (2) 音楽的な「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、キャラクターの吹き出しによって、「思考力・判断力・表現力等」を促すためのヒントを多く示す工夫が見られる。また、生徒が二次元コードで読み取った創作ツールで、作品例やワークシートを再生して確認したり、繰り返し思考したりすることができるような工夫が見られる。 (3) 資料について、歌唱では、全学年「My Voice!」のページで、歌うための姿勢や歌声づくりについて説明し、第1学年では声の出る仕組みや変声期について理解できるよう工夫されている。鑑賞では、日本音楽やポピュラー音楽などについて見開きのページで詳しく掲載されており、音楽文化をより身近なものとして感じられるよう工夫されている。 (4) 生徒が主体的に学び、他者と協働しながら楽曲の良さに気づき、音楽を表現する態度を育むために、「Let's Create!」では、グループで協働しながら学習を進める教材が取り上げられている。また、課題意識をもって対話できるように、意見交換する様子が吹き出しで示されたり、「学びのコンパス」で「注目するポイント」が示されたりしており、主体的・対話的な学びを導き出すように工夫されている。	P8, 9 P52, 53 P21 P14, 15 P50, 51 P38, 39 P19, 26, 32 49, 54, 65

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【音楽（器楽）】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備考
17 教育出版	(1) 器楽学習の充実のために、管楽器 3 種類、弦楽器 3 種類、打楽器 1 種類が取り扱われ、奏法ごとに配列されている。「深めてみよう」や「音のスケッチ」「発展」などで、器楽と創作、鑑賞を関連付けながら学習できるように示すなどの工夫が見られる。 (2) 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、「話し合おう」というコーナーが設けられ、楽器の特徴について自分の考えをまとめ意見が交流できるようになっており、対話を通して学びが深められるような工夫されている。 (3) 個別最適な学びを可能にするために、教材に関連した学習に役立つ動画や音源を二次元コードの読み取りで視聴できるように工夫されていたり、既習事項を振り返ることができるページを示したりといった工夫が見られる。 (4) 生徒が主体的に学び、他者と協働しながら、音楽活動の楽しさに気づき、音楽を表現しようとする態度を育むために、リコーダーや和楽器の合奏曲において、身近で親しみやすい様々なジャンルの楽曲を多数収録するなどの工夫が見られる。	P 6, 7 18, 31, 46 P30, 55 P30, 55 P 6, 7
27 教育芸術社	(1) 器楽学習の充実のために、管楽器 3 種類、弦楽器 3 種類、打楽器 2 種類が取り扱われ、西洋楽器、和楽器の順で配列されている。育成を目指す力の「思考力・判断力・表現力」「知識」「技能」と対応する題材や教材を分かりやすく示すなどの工夫が見られる。 (2) 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、「学びのコンパス」というコーナーが設けられ、楽器の合わせ方や重なり方について自分の考えをまとめ、意見の交流を通して対話によって学び深められるように工夫されている。 (3) 個別最適な学びを可能にするために、二次元コードの読み取りで学習に役立つ動画や音源を視聴できるようになっており、特に、練習曲の伴奏音源を読み込むことによって個人やグループごとの練習がしやすくなるような工夫が見られる。 (4) 生徒が主体的に学び、他者と協働しながら、音楽活動の楽しさに気づき、音楽を表現しようとする態度を育むために、アンサンブルの楽曲において、二重奏だけでなく、四重奏や同属楽器以外の合奏など様々な演奏形態の工夫が見られる。	P 6 ~ 8 P17, 55 81, 85 P15 P 6, 7

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【美 術】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備 考
9 開隆堂出版	(1) 美術科の目標を達成するために、学習の参考となるページや関連付けて学習できるページを示すとともに、二次元コードによる映像資料等を設定し、主体的に学習に取り組めるような構成・配列の工夫が見られる。 (2) 各題材の学習で、必要な知識・技能が部分的に図版や「美術の用語」で分かりやすく提示されている。また、各巻末の「学びの資料」に横断的に活用できる知識・技能が系統的に整理して示され、生きて働く「知識及び技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 各題材ページでは、題材のねらいや内容が直接的で伝わりやすい表現になっており、それぞれの活動でどのような資質や能力を身に付けられるかが、「知識・技能」「発想・構想」「鑑賞」の小見出しで示されている。また、生徒の活動する映像写真や、生徒作品の写真などが大きく掲載されることによって作品への興味・関心を高め、発想構想、表現方法への手がかりとなるなど、学習効果や使用上の利便性を高める工夫が見られる。 (4) 生徒が、多くの技法を身に付け、自らの意図に応じて創造的に表現する楽しさを味わうことができるようにするために、題材ごとに、生徒作品を多数掲載するとともに、作者のことばやキャラクターのワンポイントアドバイスを掲載することで、様々な表現技法等を広く選択できるような工夫が見られる。	美術 1 P 7 美術 1 P40～43 P56 美術 1 P10～13 美術 1 P18

38 光村図書 出版	(1) 美術科の目標を達成するために、掲載作品の制作過程が順を追って示されており、生徒が表現の意図と工夫を考え、美術科での学習を通して発想や構想をする力が育まれるような構成・配列の工夫が見られる。 (2) 各題材の学習で、学ぶ知識・技能の内容を別冊（1年資料）にまとめ、生徒が必要に応じて参照できるように工夫されている。さらに、生徒の活動を支援するために、技法や制作過程の動画を該当するページに二次元コードで示し、生きて働く「知識及び技能」を習得できるような工夫が見られる。 (3) 各題材ページでは、導入段階で表現につながる鑑賞作品が掲載され、言葉によって対話が生まれるような問いが示され、表現段階で作者の思いが伝わる吹き出しや制作過程が、画像や二次元コードにより示されている。また、題材の随所に他教科とのつながりが理解できるようなコラムが設けられ、最後に題材のまとめとして、関連した作品の鑑賞ができる構成となっており、学習効果や使用上の利便性を高める工夫が見られる。 (4) 生徒が、多くの技法を身に付け、自らの意図に応じて創造的に表現する楽しさを味わうことができるようにするために、「表現 発想・構想」では、生徒の制作過程を紹介することで、題材別の制作のポイントや手順、発想や構想のヒント等を紹介し、生徒が表現技法等について幅広く理解することができるような工夫が見られる。	美術 1 P60～61 美術 1 資料 P 2 ～ 9 美術 1 P52～55 美術 1 P31
---------------	---	--

116 日本文教出版	(1) 美術科の目標を達成するために、表紙や巻頭の見開きページの作品から題材につなげていくことで学びのつながりを意識させるとともに、各学年の発達の特性に即した題材の構成・配列の工夫が見られる。	美術 1 P 2 ～ 4
	(2) 各題材の学習で、必要な知識・技能の基礎を支え、生徒が自分の思いを基に活動を充実させることができるように、材料や用具の取り扱いについて各巻末にまとめられている。また、題材導入時に二次元コードを配置しており、生きて働く「知識及び技能」を習得できるような工夫が見られる。	美術 1 P48
	(3) 各題材ページでは、表現と鑑賞の一体化を意識した構成になっており、導入段階で活動や目的をイメージさせるような題材名や各題材の導入につながる二次元コード、鑑賞の見方や考え方に気付かせるような問いかけが示され、表現段階でも表現のヒントや造形的な視点としての問いかけが示されるなど、授業の流れを考えやすく、生徒に考えさせる工夫で多様な展開も期待でき、学習効果や使用上の利便性を高める工夫が見られる。	美術 1 P18～19
	(4) 生徒が、多くの技法を身に付け、自らの意図に応じて創造的に表現する楽しさを味わうことができるようにするために、題材ごとに、「表現のヒント」や「造形的な視点」を掲載するとともに、巻末の「学びを支える資料」の参照ページが分かりやすく表示されており、生徒が技法等について深く学べる工夫が見られる。	美術 1 P22～23

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【保健体育】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備考
2 東京書籍	(1) 単元の配列に関しては、1単位時間の流れとして「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の4段階での学習過程とされており、生徒が見通しをもって学習を進められ、さらに「巻末スキルブック」を設け、実生活で活用できるような工夫が見られる。 (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、小単位ごとに「活用する」「広げる」を設定し、学習を通して習得した知識・技能を活用し、再考するなどの実践力を育む工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、1単位時間の内容を見開き2ページに収め、各ページ左側本文、右側資料となっており、本文の内容に関する資料をすぐに確認できるなど、視線に配慮し、知識を確認するための資料の活用がしやすい工夫が見られる。 (4) 生涯にわたる心身の健康の保持増進に向けて、知識や技能を活用する学習活動を充実させるために、1単位時間の構成として「広げる」が設定されている。また、二次元コードによる動画視聴等や「学習のまとめ」において、実践する力の育成につながるような工夫が見られる。	P6 P177 P17 P14～15 P73 P88
4 大日本図書	(1) 単元の配列に関しては、小単位ごとに「つかもう」「話し合ってみよう等」「活用して深めよう」の3段階での学習過程とされており、生徒が見通しをもって学習を進められ、章末には「学びを活かそう」で身近な日常生活に活用を促すような工夫が見られる。 (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、章ごとに「学びを活かそう」を設定し、習得した知識・技能を活用して日常生活に活かせる実践力を育む工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、1単位時間の内容を見開き2ページに収め、本文を左ページ、本文に対応した資料を右ページに区切って掲載することで、本文を裏付け、知識を深める活動や資料から考察・推察する活動など幅広い授業を展開ができるような工夫が見られる。 (4) 生涯にわたる心身の健康の保持増進に向けて、知識や技能を活用する学習活動を充実させるために、1単位時間の構成として、「活用して深めよう」や、章末の「学びを活かそう」が設定され、学習内容を活用することで、より学びを深め、実生活につながるような工夫が見られる。	口絵 P15 P13 P13 P18～19 P93 P116

50 大修館書店	(1) 単元の配列に関しては、小单元ごとに「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」の3段階での学習過程とされ、生徒が見通しをもって学習を進められ、各章末に「章のまとめ」を設け、評価の3観点による内容の理解や定着、活用を促すような工夫が見られる。 (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、小单元ごとに「学習のまとめ」を設定し、自己の生活を見直し、自己の課題を修正できる実践力を育む工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、1単位時間の内容を見開き2ページに収め、学習の流れに沿って学習内容と関連する4種類のデジタルコンテンツを掲載することで、目的に応じて効果的にICTを活用して学習を進めていくことができる工夫が見られる。 (4) 生涯にわたる心身の健康の保持増進に向けて、知識や技能を活用する学習活動を充実させるために、重要語句を「キーワード」として明示している。また、单元ごとの二次元コードや「章のまとめ」において、学びの定着を図り、実生活に活かせるような工夫が見られる。	口絵 9～P1 P14～15 P19 P64～65 P107 P124
224 Gakken	(1) 単元の配列に関しては、小单元ごとに「ウォームアップ」「エクササイズ」「学びを生かす」の3段階での学習過程とされており、生徒が見通しをもって学習を進められ、「探究しようよ」で課題解決学習を取り入れ、より深まった学びにつながるような工夫が見られる。 (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、小单元ごとに「学びを生かす」を設定し、学んだことを活用し、今後の生活に生かすための実践力を育む工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、1単位時間の内容を見開き2ページに収め、視覚的にゆったりとした紙面になっており、大きな判型の資料を掲載することで認識しやすく、本文の内容を資料から読み取りやすいなど学びやすさを高める工夫が見られる。 (4) 生涯にわたる心身の健康の保持増進に向けて、知識や技能を活用する学習活動を充実させるために、各单元末の二次元コード「章デジ」を活用することで学びを定着させ、さらに「学びを生かす」では実生活の課題に対応できるような工夫が見られる。	P8 P22～23 P29 P28～29 P111

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【技術家庭（技術分野）】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備 考
2 東京書籍	(1) 技術科の目標を達成するために、内容ごとに「生活や社会を支える技術」「技術による問題の解決」「社会の発展と技術」の一連の流れの中で学習を進めることができるようにし、さらに技術の見方・考え方をマンガと連動した「最適化の窓」で気付かせるなどの工夫が見られる。 (2) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、最初に5段階の問題解決学習の流れを詳しく説明し、製作の例を3つ提示してある。また、「technology」のワークシートのページで協働学習をしやすい工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性及び生徒の興味・関心を高めるために、必要な技能をまとめた「TECH Lab」コーナーで写真や図版を用いたり、二次元コードから作業動画などのデジタルコンテンツを活用できるようにしたりするなどの工夫が見られる。 (4) 生徒が課題を自ら設定したり、協働的な学びを通して解決策を構想したりできるようにするために、「問題の発見と課題の設定」では、思考ツールによる問題解決の構造化や、ニーズやシーズで「問題解決例」を示し、自分で学習を進められるような工夫が見られる。	P③～P1 P19 P58～P59 P72～p77 P83 P40～P41 P115 P106～ P107
6 教育図書	(1) 技術科の目標を達成するために、内容ごとに「技術を見つめよう」「技術をいかそう」「未来をつくろう」という一連の流れの中で学習を進めることができるようにし、技術の見方・考え方を様々な立場の視点から見た問題解決で気付かせるなどの工夫が見られる。 (2) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、4段階の問題解決学習の流れが4コマ漫画でまとめてあり、製作の例を2つ提示してある。また、「未来をつくろう」で技術のプラス面、マイナス面を示し、協働学習をしやすい工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性及び生徒の興味・関心を高めるために、問題解決学習で生徒が自分で調べられるように、別冊「スキルアシスト」を作成したり、全ページで二次元コードから技能動画などのデジタルコンテンツを活用できるようにしたりするなどの工夫が見られる。 (4) 生徒が課題を自ら設定したり、協働的な学びを通して解決策を構想したりできるようにするために、問題解決の流れを簡潔に漫画で分かりやすく説明した後に、問題解決の進め方をステップごとに示し、自分で学習を進められるような工夫が見られる。	P2 P8～P9 P36～P37 P54～P63 P66 別冊 P4～ P5 別冊 P17 P86～P87 P90～P100
9 開隆堂出版	(1) 技術科の目標を達成するために、生活や社会の中にある技術に気付かせながら基礎・基本を習得させ、「問題解決→実習例→学習のまとめ」という一連の流れの中で学習を進めることができるようにし、技術の見方・考え方を身近な製品の特徴から気付かせるなどの工夫が見られる。 (2) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、最初に「思考の流れ」で4段階の問題解決学習の流れを説明し、製作の例を数多く提示してある。また、「やってみよう」の発問で協働学習をしやすい工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性及び生徒の興味・関心を高めるために、製作等の手順に沿って分かりやすく作業を進めることができるように、生徒のキャラクターを登場させたり、二次元コードから動画や資料などのデジタルコンテンツを活用できるようにしたりするなどの工夫が見られる。 (4) 生徒が課題を自ら設定したり、協働的な学びを通して解決策を構想したりできるようにするために、既存の技術の工夫やしくみについて調べた上で課題を設定し、解決のための学習が進められるような工夫が見られる。	P2～P3 P12～P13 P50～P51 P62～P73 P101 P52～P53 P115 P126～ P127

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【技術家庭（家庭分野）】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備 考
2 東京書籍	(1) 構成・配列については、「生活の営みに係る見方・考え方」を働かせることの必要性について、1編1章の「家庭分野のガイダンス」で具体例を示して確実に意識できるようにしたり、各編の導入の見開きページでも再確認したりして、よりよい生活の実現に向けて、生活を創造しようとする力を育むことができるような工夫が見られる。 (2) 生活の自立に必要な「知識及び技能」を習得させるために、「学習のまとめ」では、知識及び技能の振り返りの内容が多く、「いつも確かめよう」には基礎的な技能をまとめ、家庭でも実践しやすい難易度の低い実習例を取り上げるなど、デジタル補助教材とあわせて繰り返し知識及び技能の定着を図ることができるよう工夫されている。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、編の初めのダイナミックな写真や折り込みページを用いて視覚的な効果で学習を進めることができるように工夫されている。また、動画やシミュレーション、ワークシートなど教科書と連動して利用できる多種多様な二次元コードコンテンツはWebページから無料配信され、授業だけでなく家庭でも活用できるようになっており、学習を主体的に進められるよう工夫されている。 (4) 生徒が身の回りの生活の中から課題を見出し、自分事として解決しようとする態度を養うために、単元の冒頭に生徒が課題を設定する欄や小單元ごとに課題へ向かう「レッツスタート」や、学びを実生活につなげる「生活に生かそう」が設定され、生徒が主体的に課題に気づき、解決しようとする工夫が見られる。	P12～19 P29 P117 P110, 111 P64～73 P127～129 P28, 29 P41～47 P4, 5 P29, 117 P30, 118
6 教育図書	(1) 構成・配列については、章の初めで、自分の生活を見つめながら、「自立度チェック」で自分の状況を確認し、章の終わりの「学びを生かそう」で、今後取り組みたいことを考えさせることで、章での学びとこれからの暮らしをつなぎ、社会の一員として協働して生きる力を身に付けることのできる工夫が見られる。 (2) 生活の自立に必要な「知識及び技能」を習得させるために、重要語句の強調表記や編ごとのキーワードを提示するとともに、コンテンツを活用しながら実感を伴って学ぶことができる。また、実習題材では「私のアレンジ」を紹介し、自分なりの家庭実践につなぐ意欲をもたせることで基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るよう工夫されている。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、文字と資料のバランスを考え、本文に沿って必要な図表や写真が適切に配置され、学びを助ける効果的なイラストも多く示され理解しやすい工夫がされている。また、予習や復習に活用したり体験的な学びをサポートしたりする二次元コードのコンテンツには全てタイトルが付いているので活用しやすく、学習を主体的に進められるよう工夫されている。 (4) 生徒が身の回りの生活の中から課題を見出し、自分事として解決しようとする態度を養うために、小單元ごとに生徒の興味・関心を引き出す「見つめてみよう」や、学びを自分の言葉で記述する「ふり返る」が設定されており、生徒が主体的に課題に気づき、解決しようとする工夫が見られる。	P15, 37 P32, 33 P66, 67 P16～19 P115～125 P191 P96～99 P13 P40～43 P72, 73

9 開隆堂出版	(1) 構成・配列については、導入から振り返りまで中学生が体験しがちなエピソードや、学習者の思考を揺さぶる問いを随所に盛り込むことで、より自分事として問題を見つけたり、解決に努めたりして、よりよい生活の実現に向けて、自ら考え判断していけるような力を身に付けることのできる工夫が見られる。 (2) 生活の自立に必要な「知識及び技能」を習得させるために、内容を厳選して的確に記述し、また、調理実習では「調理方法Q&A」で、科学的根拠に基づいた理解を深めることができるように工夫されている。さらに、「生活の課題と実践」を巻末に項目を立て、習得した知識及び技能を実生活で活用しながら定着を図ることができるよう工夫されている。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、技能面の写真が詳細で分かりやすく表現され、細部については拡大写真やイラストを添えたり、目には見えない栄養素なども科学的に可視化したりすることによって、見方・考え方を広げながら理解が深まるような工夫がみられる。また、学習内容に二次元コードを付けることで豊富なコンテンツから、取捨選択して主体的に活用できるよう工夫されている。 (4) 生徒が身の回りの生活の中から課題を見い出し、自分事として解決しようとする態度を養うために、小單元ごとに、生活の具体的な場面から考えることで学習へとつなげる導入や、意思決定を図る「考えてみよう」が設定され、生徒が主体的に課題に気づき、解決しようとする工夫が見られる。	P190～192 P198, 21 P128～135 P292 P120～123 P100, 101, 190 P34, 65 P40, 41 P60, 61
---------	---	---

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【英 語】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備 考
2 東京書籍	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各Unitを「扉」「Part」「Read and Think」「Unit Activity」などで構成し、複数の単元のまとめである「Stage Activity」に向けて、スモールステップで積み上げてゴールにつなぐ構成となっている。特に、「扉」では、単元を貫く問いを通して題材への興味を高め、「Unit Activity」では、各パートの「Activity」で用いた表現を生かして、目的・場面・状況を意識した言語活動に取り組む工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「Unit」の活動目標が明確に示してあり、学習する前に「Preview」を聞くことで、目的・場面・状況を想起しやすくしている。「Read and Think」ではまとまった文を読み、自分の考えを表現することができる工夫が見られる。 (3) 学習者用デジタル教科書については、表示されたページ画面に触れるだけで内容ごとに拡大表示されるとともに、「書き込み」画面を開くと、「リンクの追加」ができる機能が備えられ、個別学習に必要なデジタル資料を収集できるなどの学習者に配慮した工夫が見られる。 (4) 生徒が文・文構造及び文法事項を理解し、活用につなげることができるようにするために、本文の内容に関連した「Practice」で文構造を理解し、「Activity」において自己表現活動につながる構成になっており、段階的に言語材料を身に付けられるような工夫が見られる。	2年 P29～P36 P40 P29 P36 2年 P9 P12～P15 2年 P22, P23 2年 P10
9 開隆堂出版	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各Programを「とびら」「Scenes」「Tuning in」「Part」「Review & Retell」「Action」で構成し、新出表現を繰り返し取り扱うことで確実な基礎・基本の定着が期待される。特に、「Scenes」では、マンガ形式や朱書きで新出表現が導入されており、巻末のCAN-DOリストが「とびら」に示されている表現とリンクしていることで、自身が1年間を通して身につけた表現がわかるという工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「Scenes」ごとに日本語のタイトルがつけられており、新出表現を用いた対話の内容理解がしやすくなっている。単元末の「Review & Retell」では、自分の言葉で表現する機会を設定するといった工夫が見られる。 (3) 学習者用デジタル教科書については、本文のシートだけでなく「学習者支援」のシートが設定され、精選された情報が大きく表示されたり、「ワークスペース」のアイコンから四線ノート等を活用できたりするなどの学習者に配慮した工夫が見られる。 (4) 生徒が文・文構造及び文法事項を理解し、活用につなげることができるようにするために、言語材料が視覚的に理解できる「Scenes」から始まり、「Listen」「Speak & Write」の活動で繰り返し言語材料を身に付けられるような工夫が見られる。	2年 P65～73 P66, P65 P161 2年 P8, P9 P14 2年 P31 2年 P9

15 三省堂	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各Lessonを「とびら」「Scene」「Goal Activity」で構成し、「Scene」で学習した内容を活用する「Goal Activity」が設定され、さらに複数のLesson毎に統合的な言語活動に取り組む「Project」が設定されていることで段階的に学習できる。特に、「とびら」では、学習の見通しを立て、題材やテーマへの興味・関心を高めたり、「Small Talk Plus」では、即興で話す活動を通して表現力を高めたりすることができる工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、目的や場面、状況に応じて、必要な情報を読み取る形で「Take Action!」が設定されている。「For Self-study」では、学習者が抱くであろう悩みについて学び方を提案し、個に応じた学びを支援するといった工夫が見られる。 (3) 学習者用デジタル教科書については、表示画面に触れるだけで内容が拡大表示されるとともに、拡大した画面の左下には「New Words」のカードが表示され、クリックすると新出英単語が音声で読み上げられ、繰り返し学習できるなどの学習者に配慮した工夫が見られる。 (4) 生徒が文・文構造及び文法事項を理解し、活用につなげることができるようにするために、「Check」の二次元コードを活用することで文法事項を繰り返し練習し、文構造に慣れ「Listen」「Speak」の表現活動につなげることができるような工夫が見られる。	2年 P15～23 P38, 39 P27 P33 2年 P13 P4, P44 P86, P114 2年 P58 2年 P8
17 教育出版	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各Lessonを「扉」「Part」「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、4技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、Partごとの「Think & Try!」では、会話の続きを考えながら演じさせ、単元末の「Read & Try!」では、学んだことを説明する発展的な学習ができるようになっている。各Partにおいて小学校で学んだ単語も表記されるといった工夫が見られる。 (3) 学習者用デジタル教科書については、「WAP (word & phrases)」から語句の学習ができるほか、画面右端に「フラッシュカード」「思考ツール」など、多様な学習支援のアイコンが設けられ、自分の学習状況に応じて設定を変更できるなど学習者に配慮した工夫が見られる。 (4) 生徒が文・文構造及び文法事項を理解し、活用につなげることができるようにするために、「Tool Kit」で慣れ親しませ、「Let's Listen」及び「Think & Try!」の活動で言語材料の活用ができるような工夫が見られる。	2年 P23～32 P32 P20 P44, 45 2年 P13 P17, P14 2年 P34 2年 P13

38 光村図書 出版	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各Unitを「扉」「Part」「Goal」で構成し、「読む」「聞く」「書く」「話す（やり取り、発表）」の様々な領域における言語活動が準備されており、繰り返し英語を使いながら知識・技能の習得を図ることができる。特に、各Unitと帯教材「Story Retelling」を並行して学習することで、即興で話す力を高めたり、「Goal」では、登場人物になりきって発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、帯活動に有効な「Retelling」が掲載され、写真・イラストやキーワードを用いて、自分の言葉で伝える機会が設定されている。各Unitでの表現活動に役立つ言語材料をまとめた「Active Words」がテーマごとに分類されるなどの工夫が見られる。 (3) 学習者用デジタル教科書については、画面操作のためのアイコンが平易な言葉で表示され、操作が分かりやすくなっているとともに、サポートのアイコンを開くと、「見やすさ」「読みやすさ」「使いやすさ」を自分で設定することができるなど学習者に配慮した工夫が見られる。 (4) 生徒が文・文構造及び文法事項を理解し、活用につなげることができるようにするために、学習した言語材料を振り返りながら、各Partにおいて4技能の言語活動にバランスよく取り組むことができるような工夫が見られる。	2年 P19～26 P122, 123 P57 2年 P122～P129 P130～P136 2年 P92 2年 P10, P11
61 新興出版 社啓林館	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各Unitを「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let'sシリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料に合わせて設定されており、場面に応じた英語力を育成できる。特に、「Let'sシリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション能力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。 (2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、「Unit Goal」では、技能の明確な目標が示されると共に、目標に対する自己評価ができるような工夫がされている。Partごとに掲載されている「Enjoy Chatting」では、即興でのやりとりを促す工夫が見られる。 (3) 学習者用デジタル教科書については、画面操作のアイコンについての説明を「?（ヘルプ）」で一覧できるとともに、「暗記ペン」「バインダー」等が設けられ、英単語の暗記や自分の考えをバインダーで追加することができるなどの学習者に配慮した工夫が見られる。 (4) 生徒が文・文構造及び文法事項を理解し、活用につなげることができるようにするために、各Partに「Listen」「Speak」「Write」の活動が設定され、言語材料に繰り返し慣れ親しませ、「Express Yourself」で自己表現につながるような工夫が見られる。	2年 P33～43 P42, 43 P46～48 2年 P5 P6 2年 P20 2年 P7

令和 7 年度使用

中学校用教科用図書研究資料（総評）

【道 徳】

教科用図書北諸県採択地区協議会

発行者	総 評	備 考
2 東京書籍	(1) 道徳科の目標を達成するために、教材3つをユニット化して、「いじめのない世界へ」「いのちを考える」というまとまりを作り、全学年同じ時期に配置することで、指導に最適な時期に重点的な学びができるような構成・配列の工夫が見られる。 (2) 多面的・多角的な考え方ができるように、見開きでのポスターやグラフ等を用いたビジュアル教材で想像を広げ、読むことが苦手な生徒からも異なる立場や視点から多様な考えを引き出すような工夫が見られる。 (3) 学習効果や利便性については、巻頭に「道徳科の授業はこんな時間に」を設けることで、考え、議論する道徳を実現するための学習の流れが分かるように工夫がなされている。また、巻末の「心情円」を使用することで、すべての生徒が自分の気持ちや考えを簡単に表現でき、自己表現や話し合いが苦手な生徒も授業に参加しやすくなるような工夫が見られる。 (4) 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた郷土を愛し、進んで地域の発展に貢献しようとする実践意欲と態度を身に付けさせるために、祭りや和食などの日本の伝統的な行事や文化を教材として扱い、「見つめよう」「ぐっと深める」で自分の考えを深め、発展させるような工夫が見られる。	2年 目次 2年 P50, P51 2年 P190 P191 P4, P5 巻末 2年 P65
17 教育出版	(1) 道徳科の目標を達成するために、いじめ問題、共生や持続可能な社会の在り方、生命の尊さのテーマで、複数の教材とコラムを組み合わせ、重層的にユニット化し、深い学びができるような構成・配列の工夫が見られる。 (2) 多面的・多角的な考え方ができるように、様々な立場に立って考えたことを教科書に書き込んで整理し、他者の考えと比べる言語活動により、問題の本質に迫るような工夫が見られる。 (3) 学習効果や利便性については、巻頭に「さあ、道徳を始めよう！」を設け、話し合いを深めるためのポイントがつかめるような工夫がなされている。また、巻末の「よりよく生きる」ことについて、1年間の学習の集大成として表現する活動を取り入れることで、これまでの成長を実感し、これからの生き方について考えられるような工夫が見られる。 (4) 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた郷土を愛し、進んで地域の発展に貢献しようとする実践意欲と態度を身に付けさせるために、郷土の祭りを教材として扱い、「学びの道しるべ」で、自分たちの地域を振り返るような発問を設け、教材の内容だけで終結せず、郷土に目を向け考えていけるような工夫が見られる。	2年 目次 2年 P70, P71 2年 P4, 5 巻末 2年 P153

38 光村図書 出版	(1) 道徳科の目標を達成するために、9つのテーマでゆるやかに全教材をユニット化し、異なる内容項目からテーマにアプローチすることで、道徳的価値について考えを深め、多様な学びができるような構成・配列の工夫が見られる。 (2) 多面的・多角的な考え方ができるように、「見方を変えて」では「考えよう」の発問とは切り口を変えた問いや呼びかけ、「つなげよう」では更に深めさせたいテーマを提示するような工夫が見られる。 (3) 学習効果や利便性については、巻頭に「道徳の学習を始めよう」を設け、3つのポイントを示し、道徳科を学ぶ心構えを意識することができるような工夫がなされている。また、最終教材「一年間の学びを振り返ろう」では、これまでの学びを振り返り、心の成長に気づくとともに、これからの生き方について考えることができるような工夫が見られる。 (4) 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた郷土を愛し、進んで地域の発展に貢献しようとする実践意欲と態度を身に付けさせるために、生徒の発達の段階に即した中学生視点の教材を用いて地域を振り返るとともに、「つなげよう」で関連する教材を示し、発展的に考えを深めるような工夫が見られる。	2年 目次 2年 P14 2年 P6, P7 P170 P171 2年 P111
116 日本文教 出版	(1) 道徳科の目標を達成するために、多様性の尊重とSDGsに関わるテーマを教材ごとに設定し、一部を同じテーマでユニット化して年間で複数配置することで、現代的課題についての考えが深められるような構成・配列の工夫が見られる。 (2) 多面的・多角的な考え方ができるように、「学びを深めよう」では問題解決的な学習や体験的な学習の流れと資料を提示し、生徒が話し合い活動や役割演技を通して道徳的価値にせまるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や利便性については、巻頭に「道徳科での学びを始めよう！」や「ミニ教材で考えてみよう」を設けることで、学びの見通しがもてるような工夫がなされている。また、別冊「道徳ノート」を併用することで、生徒自身が考えを記録し積み上げ、振り返ることで成長を実感できるような工夫が見られる。 (4) 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた郷土を愛し、進んで地域の発展に貢献しようとする実践意欲と態度を身に付けさせるために、地域活動のよさを扱う教材では、「自分にプラスワン」で発展的に考えさせる視点を示すとともに、コラム「視野を広げて」では、地域ごとの違いを比較しながら考えることができるような工夫が見られる。	2年 目次 2年 P37 P68, P69 2年 P4, P5, P6 別冊道徳ノート 2年 P63, P178
224 Gakken	(1) 道徳科の目標を達成するために、最重点テーマ「いのち」に関わる教材と「SDGs」「多様性」「キャリア」の3つのテーマのユニット学習を関連させることで、自他の命について広い視野で考えを深められるような構成・配列の工夫が見られる。 (2) 多面的・多角的な考え方ができるように、「クローズアップ」では教材の内容項目に即した資料や異なる立場からの多様な意見及び関連情報などを扱い、教材を軸に考えさせるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や利便性については、巻頭「道徳科で学ぶこと 考えること」の中で、多様な学び方や思考ツールの使い方、ICTの活用の方法を設けおり、関連する資料を自分で調べたり、考えを整理したりすることで、生徒が自ら関心を持って道徳の学びに向き合うための工夫が見られる。 (4) 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた郷土を愛し、進んで地域の発展に貢献しようとする実践意欲と態度を身に付けさせるために、若い人たちが伝統を継承し、新しい文化を創造する取組を教材として扱い、郷土に目を向け、郷土のために自分ができることは何かを主体的に考えることができるような工夫が見られる。	2年 目次 2年 P142 P172 2年 P8 2年 P138

232 あかつき 教育図書	(1) 道徳科の目標を達成するために、重要なテーマについては教材を連続させてユニット化し、各学年でユニット数やユニット内の教材数を変えることで、発達段階に応じた学びを深められるような構成・配列の工夫が見られる。 (2) 多面的・多角的な考え方ができるように、「マイ・プラス」では、役割演技や話し合いなどを取り入れて、生徒がいろいろな立場で想像したり考えたりできるような問いを設定するような工夫が見られる。 (3) 学習効果や利便性については、第1教材「道徳 はじまりの時間」を設け、どのようなことをテーマに考え、深めていくのかが分かるような工夫がなされている。また、巻末にワークシート「学習の記録」を設けることで、学期ごと及び1年間の学習の振り返りができるような工夫が見られる。 (4) 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた郷土を愛し、進んで地域の発展に貢献しようとする実践意欲と態度を身に付けさせるために、個性豊かな伝統行事に関する教材や、地域ぐるみの活動を紹介するコラムを用いることで、郷土の伝統を受け継ぎ、発展させていくことの意義を考えることができるような工夫が見られる。	2年 目次 2年 P46, P47 2年 P6, P7, P8, P9, P10, P11 巻末 2年 P52, P172
233 日本教科 書	(1) 道徳科の目標を達成するために、教材を学習指導要領の内容項目に沿って視点別内容項目順に配列し、教科書の順番に縛られることなく、各学校の年間指導計画に基づいたカリキュラム編成がしやすいような構成・配列の工夫が見られる。 (2) 多面的・多角的な考え方ができるように、生徒一人一人に「よりよい自分」を探究させるためのウェルビーイングカードを活用し、それぞれの考えや思いを伝え合うことができるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や利便性については、巻頭に「道徳授業」を設けることで、前学年の振り返りと1年間の目標や課題について考えられるような工夫がなされている。また、巻末の「ウェルビーイングカード」を活用することで、授業において自分の意見をもとに、対話しやすくするような工夫が見られる。 (4) 伝統と文化を尊重し、それらを育んできた郷土を愛し、進んで地域の発展に貢献しようとする実践意欲と態度を身に付けさせるために、伝統を扱った教材において、動画等の補助教材や、継続して考えていけるような問いかけをすることで、発展的に自分たちの地域の伝統・文化について考えることができるような工夫が見られる。	2年 目次 2年 P6, P160 2年 P4, P5, P6 2年 P119